



My stories in St.Paul

2023年度入学 セレクティブコース N.I



進学先：聖心女子大学 学校推薦型（指定校推薦）

STEP 1 後ろ向きのスタート



第一志望の都立高校に落ち、「渋々」という気持ちでパウロに入学しました。入学当初は悔しさを拭い去ることができず、目的もなくなると学校に通う日々が続いていました。転機となったのは、1年生の1学期に行われた担任の先生との面談です。私が「子どもが好きで、将来は保育士も考えている」と打ち明けると、先生はすぐに進路指導部の担当の先生へ話をつないでくれました。このスピード感ある後押しが、私をボランティア活動へと踏み出させてくれました。



STEP 2 恩方保育園ボランティア

1年生から保育ボランティアに参加し、仕事の楽しさを知った一方で、2年生になると「本当に自分に向いているのだろうか」というネガティブな不安に襲われることもありました。しかし、約1年間継続して恩方保育園へ通い続ける中で、現場の先生方から「対応が上手だね」「保育士に向いているよ」と声をかけていただけるようになりました。プロの方々からの言葉は、揺らぎそうだった私に「保育士になる」という強い自信と覚悟を与えてくれました。



STEP 3 「五感ロック」が変えた社会への視点



探究活動では、地域活性化のために地元の名産・ブルーベリーを使った「マカロン」の制作に挑戦しました。若者らしい感覚で新しい名産品を作りたいと考えたからです。現役の商店会の方からマーケティングを学び、調理専門学校の先生に技術を教わりながら試行錯誤を繰り返しました。そして地域イベント「五感ロック」で実際に販売したところ、用意したマカロンは完売。多くの大人たちが私の挑戦を応援し、評価してくれたこの経験は、私にとって「社会とつながる喜び」を知る大きな原体験となりました。

STEP 4 「やればできる」

これまでの人生、勉強が得意なわけでも、何かに熱中してきたわけでもありませんでした。そのため、どこかで「自分は大して何もできない人間だ」と思い込んでいたところがありました。パウロでの3年間は、その思い込みを180度変えてくれました。ボランティアや探究活動を通じて、やりたいことに自由に挑戦させてもらい、そのたびに誰かが私を認め、評価してくれました。「やればできる」と自分を信じられるようになった今、あの時都立高校に落ちたことは、私にとって必要な遠回りだったのだと感じています。この学校だったからこそ、私は私のまま、胸を張って卒業することができます。

